

A01N 人間または動物または植物の本体またはその一部の保存(食品または食料品の保存 A 2 3); 殺生物剤, 例. 殺菌剤, 殺虫剤または除草剤として(望ましくない生物の殺除あるいは成長または増殖を防止する医療用の製剤, 歯科用の製剤又は化粧品 A 6 1 K); 有害生物忌避剤または誘引剤; 植物生長調節剤

注

1. このサブクラスは以下のものを包含する:

・組成物, 物理的形態, 特定物質の適用方法, あるいは単一化合物又は組成物の使用;

・無脊椎動物, 例. 昆虫, を生殖不能にするための化学不妊剤, それ以外の目的の不妊剤はサブクラス A 6 1 K でカバーされる。

2. このサブクラスは, 栄養を与えることによってのみ植物の生長に影響を及ぼす物質, すなわち育成のために通常必要とされる肥料, または植物のミネラル欠乏症を防ぐため, または回復させるために用いる物質, たとえば鉄分の欠乏によるクロロシスを直すために添加する鉄キレートなどは, 包含しない。こうした物質はクラス C 0 5 に分類される。

3. このサブクラスでは, 下記の表現は以下に示す意味で用いる:

・“植物生長調節剤”とは, オーキシンのように植物の代謝を化学的に調節して植物を変える物質である。

4. 化合物または合成から成る殺生物剤, 有害生物忌避剤, 有害生物誘引剤または植物生長調節剤活性は, さらにサブクラス A 0 1 P にも分類する。

サブクラス内の索引

人間または動物の死骸, または植物の保存 1/00, 3/00

殺生物剤; 有害生物忌避剤または誘引剤; 植物生長調節剤

物理的形態または適用方法 25/00

有機化合物を含むもの 27/00-57/00, 61/00

無機化合物を含むもの 59/00

微生物, 酵素, 動物または植物の抽出物を含むもの 63/00, 65/00

人間または動物または植物の本体, またはそれらの部分の保存

- 1/00 人間または動物またはそれらの各部分の保存
- 1/10 ・生体部分の保存 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/12 ・・保存の化学的観点 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/122 ・・・保存または灌流媒体 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/124 ・・・・消毒成分, 例. 抗微生物剤 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/125 ・・・・凍結防止剤, 例. 抗凍結剤又は浸透圧調整剤 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/126 ・・・・生理的活性物質, 例. 抗酸化剤又は栄養素 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/128 ・・・生体部分を固定, 保持または貯蔵するための化学的に定義されたマトリックス, 例. アルギン酸ゲル; 生体部分の化

学的変化, 例. 架橋による [2 0 2 5 . 0 1]

- 1/14 ・・保存の機械的観点; そのための装置または容器 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/142 ・・・装置 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/143 ・・・・臓器灌流用 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/144 ・・・・温度制御用, 例. 冷蔵庫または凍結乾燥装置 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/145 ・・・・・極低温を発生させる定置式または可搬式の容器, 例. 液体窒素槽 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/146 ・・・生体部分を保存しながら輸送または保管するために特に適した非冷却容器 [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/147 ・・・・緩慢凍結またはガラス化のために, 極低温流体中へ浸漬するためのキャリア [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/148 ・・・・移送に特に適した設備を有するもの [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/16 ・・物理的保存プロセス [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/162 ・・・温度プロセス, 例. 予め定義された温度の経時的変化に従うもの [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/165 ・・・圧力プロセス, 例. 予め定義された圧力の経時的変化に従うもの [2 0 2 5 . 0 1]
- 1/168 ・・・電磁場または電磁放射線を用いるもの; 音波または粒子線を用いるもの [2 0 2 5 . 0 1]
- 3/00 植物またはその各部分の保存, 例. 蒸発作用の抑制, 葉の外見の改善(収穫した果実または野菜の保存または化学的熟成 A 2 3 B 7 / 0 0); 接木用ワックス
- 3/02 ・切花を化学的方法で新鮮に保つこと [2 0 0 6 . 0 1]
- 3/04 ・接木用ワックスを用いるもの

殺生物剤; 有害生物忌避剤または誘引剤; 植物生長調節剤 [3]

注

(1) C セクションのタイトルの下の化学元素のグループの定義に注意する。[3]

(2) グループ A 0 1 N 2 7 / 0 0 ~ A 0 1 N 6 5 / 0 0 までのグループにおいては, ラストプレイス優先ルールが適用される, すなわち各階層レベルにおいて相反する指示がない限り, 活性物質は, 最後の適切な箇所に分類する。[3]

(3) 組成物, 即ち 2 以上の活性物質の混合物は, これらの活性物質のうち少なくとも 1 つに当てはまるグループ A 0 1 N 2 7 / 0 0 ~ A 0 1 N 6 5 / 0 0 のうちの最後の箇所に分類する。[8]

(4) 注(3)に従った分類によっては特定されないが, それ自体が新規かつ非自明と判断される組成物の一部分も, グループ A 0 1 N 2 7 / 0 0 ~ A 0 1 N 6 5 / 0 0 のうちの最後の適切な箇所に分類しなければならない。当該部分は, 単一の成

分または組成物自体の何れかであり得る。[8]

(5) 注 (3) または注 (4) に従った分類によっては特定されないが、検索に有用な情報を表していると思われる組成物の一部分も、グループ A 0 1 N 2 7 / 0 0 ~ A 0 1 N 6 5 / 0 0 のうちの最後の適切な箇所に分類してもよい。例えばこれは、分類記号の組合わせを用いた組成物の検索が可能となることが重要であると考えられる場合にあり得る。こうした非義務的分類は、「付加情報」として付与される。[8]

(6) 化合物が互変異性体として存在すると記述されている場合は、その化合物は分類体系の最後の箇所に分類されている方の型の化合物で存在しているものとして分類する。[3]

(7) 一般式の択一的に特定された部分により異なったメイングループに含まれる化合物は、関連するメイングループの各々に分類する。[3]

(8) 2 個またはそれ以上の有機化合物間に生成した塩は、基本のイオンに解離する化合物として分類し、なお他のイオンとなる化合物としても分類する。[3]

(9) 有機化合物の塩または金属キレートはその化合物として分類する。[3]

(1 0) このサブクラスにおいては、栄養要素は活性成分として考えない。[3]

(1 1) 異なった時期に、順次用いられる種々の物質は、使用される全物質の混合物として考える。[3]

(1 2) 増強性または賦活性の組成物は、増強剤または賦活剤が活性成分であるものとして分類する。[3]

(1 3) A 0 1 N 2 5 / 0 0 ~ A 0 1 N 6 5 / 0 0 までのグループにおいては、記号 X は窒素、酸素、硫黄またはハロゲンを示し、Y は窒素、酸素または硫黄を示す。原子間の点線は、任意の結合を示す、例 は 1 個または 2 個の単結合または 1 個の二重結合を示す。[3]

- 25/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤または植物生長調節剤であって、その形態、またはその不活性成分または使用法に特徴があるもの；活性成分による有害生物以外の生物への悪影響を低減するための物質 [2 0 0 6 . 0 1]
- 25/02 ・担体、希釈剤または溶媒として液体を含むもの [3]
- 25/04 ・分散物またはゲル状物 (泡 A 0 1 N 2 5 / 1 6) [3]
- 25/06 ・エアゾール [3]
- 25/08 ・担体または希釈剤として固体を含むもの [3]
- 25/10 ・高分子化合物 [3]
- 25/12 ・粉剤または粒剤 (A 0 1 N 2 5 / 2 6 が優先) [3]
- 25/14 ・水和剤 [3]
- 25/16 ・泡 [3]
- 25/18 ・遅効性または持続性の蒸気または煙発生組成物 [3]
- 25/20 ・発火性または発熱性の組成物 [3]
- 25/22 ・活性成分を安定させる成分を含むもの [3]

- 25/24 ・活性成分の固着性を強化する成分を含むもの [3]
- 25/26 ・被覆された微粒子状の形態のもの [3]
- 25/28 ・マイクロカプセル [3]
- 25/30 ・表面活性剤により特徴づけられたもの [3]
- 25/32 ・有害生物以外の有機体に対する活性物質の有害な影響を減少する成分、例、毒性低下組成物、自壊作用をもつ組成物 [3]
- 25/34 ・このメイングループ内の他のいかなるサブグループにも分類されない形態のもの、例、シート状のもの [3]
- 27/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤または植物生長調節剤であって炭化水素を含むもの [3]
- 29/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であってハロゲン化炭化水素を含むもの [3]
- 29/02 ・非環式化合物または環式脂肪族環系の脂肪族側鎖についたハロゲンを有する化合物 [3]
- 29/04 ・ハロゲンが直接炭素環系についたもの [3]
- 29/06 ・ヘキサクロシクロヘキサン [3]
- 29/08 ・ハロゲンが直接多環系についたもの [3]
- 29/10 ・ハロゲンが芳香族環系の脂肪族側鎖についたもの [3]
- 29/12 ・ 1 , 1 ジまたは 1 , 1 , 1 トリハロ 2 アリール エタンまたは エテンまたはその誘導体、例、DDT [2 0 0 6 . 0 1]
- 31/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であって有機酸素または硫黄化合物を含むもの [3]
- 31/02 ・非環式化合物 [3]
- 31/04 ・酸素または硫黄が炭素環系の脂肪族側鎖についたもの [3]
- 31/06 ・酸素または硫黄が直接環式脂肪族環系についたもの [3]
- 31/08 ・酸素または硫黄が直接芳香族環系についたもの [3]
- 31/10 ・ペンタクロロフェノール [3]
- 31/12 ・ビスクロロフェノール [3]
- 31/14 ・エーテル [3]
- 31/16 ・ 2 個またはそれ以上の酸素または硫黄原子が直接同一の芳香族環系についたもの [3]
- 33/00 殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であって有機窒素化合物を含むもの [3]
- 33/02 ・アミン；四級アンモニウム化合物 [3]
- 33/04 ・窒素が直接脂肪族または環式脂肪族の

	炭素原子についてもの [3]		類似体を有するもの; その誘導体 [3]
33/06	・・窒素が直接芳香族環系についてもの [3]	37/10	・芳香族または芳香脂脂肪族カルボン酸, またはそのチオ類似体; その誘導体 [3]
33/08	・・酸素または硫黄を含むもの [3]		
33/10	・・・少なくとも 1 個の酸素または硫黄原子が直接芳香族環系についてもの [3]	37/12	・基 $\begin{array}{c} \text{---CO---O---C}\equiv\text{C}_n\text{---Y}\text{---} \\ \qquad \qquad \end{array}$ を有するもの, ここで C n は環を含まない炭素骨格を示す; そのチオ類似体 [3]
33/12	・・四級アンモニウム化合物 [3]		
33/14	・窒素 ハロゲン結合を有するもの [3]	37/14	・基 $\begin{array}{c} \text{---CO---O---C}\equiv\text{X}\text{---} \\ \end{array}$ を有するもの; そのチオ類似体 [3]
33/16	・窒素 酸素結合を有するもの [3]		
33/18	・・ニトロ化合物 [3]	37/16	・基 $\begin{array}{c} \text{---CO---O---Y}\text{---} \\ \end{array}$ を有するもの; そのチオ類似体 [3]
33/20	・・・酸素または硫黄がニトロ基を有する炭素骨格についてもの [3]	37/18	・基 C O N < を有するもの, 例 . カルボン酸アミドまたはイミド; そのチオ類似体 [3]
33/22	・・・・少なくとも 1 個の酸素または硫黄原子と少なくとも 1 個のニトロ基が直接同一の芳香族環系についてもの [3]		
33/24	・・1 個の酸素原子が窒素原子についてもの [3]	37/20	・・基 $\begin{array}{c} \text{---CO---N}\equiv\text{C}\equiv\text{C}_n\text{---Y}\text{---} \\ \qquad \qquad \end{array}$ を有するもの, ここで C n は環を含まない炭素骨格を示す; そのチオ類似体 [3]
33/26	・窒素 窒素結合をもつもの, 例 . アジド, ジアゾアミノ化合物, ジアゾニウム化合物, ヒドラジン誘導体 [3]	37/22	・・芳香族環系に直接ついた窒素原子, 例 . アニリド [3]
35/00	殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 異種原子と 2 個の結合をもちそのうち多くても 1 個がハロゲンとの結合である炭素原子を有する有機化合物を含むもの, 例 . アルデヒド基 [3]	37/24	・・・同一の芳香族環系に直接ついた少なくとも 1 個の酸素または硫黄原子を有するもの [3]
35/02	・脂肪族的に結合したアルデヒド, ケト基またはそのチオ類似体を有するもの; その誘導体, 例 . アセタール [3]	37/26	・・基 $\begin{array}{c} \text{---CO---N}\equiv\text{C}\equiv\text{X}\text{---} \\ \end{array}$ を有するもの; そのチオ類似体 [3]
35/04	・芳香族環系に直接ついたアルデヒド, ケト基またはそのチオ類似体を有するもの, 例 . アセトフェノン; その誘導体, 例 . アセタール [3]	37/28	・・基 $\begin{array}{c} \text{---CO---N}\equiv\text{X}\text{---} \\ \end{array}$ を有するもの; そのチオ類似体 [3]
35/06	・環の一部としてケトまたはチオケト基をもつもの, 例 . シクロヘキサノン, キノン; その誘導体, 例 . ケタール [3]		
35/08	・異種原子への結合のうち少なくとも 1 つが窒素へのもの [3]	37/30	・・基 C O N < および $\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{---C}\equiv\text{X}\text{---} \\ \end{array}$ を有し, 2 者ともその炭素原子によって同じ炭素骨格に直接ついているもの, 例 . H ₂ N N H C O C ₆ H ₄ C O O C H ₃ ; そのチオ類似体 [3]
35/10	・・炭素 窒素二重結合を有するもの [3]	37/32	・・多塩基性カルボン酸の環状イミドまたはそのチオ類似体 [3]
37/00	殺生物剤, 有害生物忌避剤または誘引剤, または植物生長調節剤であって, 異種原子と 3 個の結合をもちそのうち多くても 2 個がハロゲンとの結合である炭素原子を有する有機化合物を含むもの, 例 . カルボン酸 (シクロプロパンカルボン酸またはその誘導体を含むもの, 例 . シクロプロパンカルボン酸ニトリル, A 0 1 N 5 3 / 0 0) [3]	37/34	・ニトリル [3]
37/02	・飽和カルボン酸またはそのチオ類似体; その誘導体 [3]	37/36	・少なくとも 1 個のカルボキシル基, そのチオ類似体またはその誘導体を含み, 酸素または硫黄原子が単結合で同一炭素骨格についているもの, この酸素または硫黄原子はカルボキシル基, チオ類似体またはその誘導体の 1 員ではない, 例 . ヒドロキシカルボン酸 [3]
37/04	・・多塩基性のもの [3]		
37/06	・不飽和カルボン酸またはそのチオ類似体; その誘導体 [3]		
37/08	・環式脂肪族環にその炭素原子により直接ついているカルボン酸基またはそのチオ		

- 37/38 ・ ・ 少なくとも 1 個の酸素または硫黄原子が芳香族環系についたもの [3]
- 37/40 ・ ・ ・ 少なくとも 1 個のカルボキシル基，チオ類似体またはその誘導体と，1 個の酸素または硫黄原子とが同一芳香族環系についたもの [3]
- 37/42 ・ 同一炭素骨格内にカルボキシル基，チオ類似体またはその誘導体と，異種原子と 2 個の結合のみ有しそのうち多くとも 1 個がハロゲンとの結合である炭素原子とを有するもの，例．ケトカルボン酸 [3]
- 37/44 ・ 少なくとも 1 個のカルボキシル基，チオ類似体またはその誘導体を含み窒素原子が単結合または二重結合で同一炭素骨格についているもの，この窒素原子はカルボキシル基の誘導体またはチオ類似体の 1 員ではない，例．アミノカルボン酸 [3]
- 37/46 ・ ・ N アシル誘導体 [3]
- 37/48 ・ ・ ニトロカルボン酸；その誘導体 [3]
- 37/50 ・ ・ 炭素骨格に二重結合している窒素原子 [3]
- 37/52 ・ 基 $\begin{array}{c} \text{X}-\text{C}=\text{N}- \\ | \end{array}$ を有するもの，例．カルボン酸アミジン [3]
- 39/00 殺生物剤，有害生物忌避剤または誘引剤，または植物生長調節剤であって，基 $\text{Ar}-\text{O}-\text{C}_n \equiv \text{Y}$ または $\text{Ar}-\text{S}-\text{C}_n \equiv \text{Y}$ を有するアリールオキシまたはアリールチオ脂肪族または環式脂肪族化合物を含むもの，例．フェノキシエチルアミン，フェニルチオアセトニトリル，フェノキシアセトン [3]

注

このグループにおいて，記号 C_n は芳香族環系を有しない炭素骨格を示し， $n \geq 2$ である。 [3]

- 39/02 ・ アリールオキシカルボン酸；その誘導体 [3]
- 39/04 ・ ・ アリールオキシ酢酸；その誘導体 [3]
- 41/00 殺生物剤，有害生物忌避剤または誘引剤，または植物生長調節剤であって，異種原子に結合した硫黄原子を有する有機化合物を含むもの [3]
- 41/02 ・ 硫黄 酸素二重結合を有するもの [3]
- 41/04 ・ ・ スルホン酸；その誘導体 [3]
- 41/06 ・ ・ ・ スルホン酸アミド [3]
- 41/08 ・ ・ ・ スルホン酸のハロゲン化物； ヒドロキシ スルホン酸；アミノ スルホン酸；チオスルホン酸；その誘導体 [3]
- 41/10 ・ ・ スルホン；スルホキシド [3]
- 41/12 ・ 硫黄 酸素結合をもたない，例．ポリスルフィド [3]
- 43/00 殺生物剤，有害生物忌避剤または誘引剤，

または植物生長調節剤であって複素環式化合物を含むもの（環式無水物，環式イミドを含むもの A 0 1 N 3 7 / 0 0 ；ただ 1 個

の複素環を有する式 $\text{X}_m \equiv \text{C}_n - \text{N} \begin{array}{c} \text{C} \\ \diagup \end{array}$ の化合物を含むもの，ここで $m \geq 1$ ， $n \geq 0$ であり，

$\text{N} \begin{array}{c} \text{C} \\ \diagup \end{array}$ は非置換またはアルキル置換したピロリジン，ピペリジン，モルホリン，チオモルホリン，ピペラジンまたは 4 個またはそれ以上の CH_2 基を有するポリメチレンイミン A 0 1 N 3 3 / 0 0 ~ A 0 1 N 4 1 / 1 2 ；シクロプロパンカルボン酸またはその誘導体，例．複素環を持つエステル，を含むもの A 0 1 N 5 3 / 0 0) [2 0 0 6 . 0 1]

注

(1) このグループにおいては，下記の用語または表現は以下に示す意味で用いる：

“ 複素環 ” とは，少なくとも 1 個のハロゲン，窒素，酸素，または硫黄原子を環原子として含む環をいう；

“ 架橋 ” はオルソ，ペリ，スピロ以外の少なくとも 1 個の結合の存在を意味する；

少くとも 1 個の環原子を共有する 2 個の環は縮合しているとする。すなわち，“ スピロ ” および “ 架橋 ” は縮合と考える；縮合環系とは，環が相互に縮合している 1 個の環系をいう。 [3]

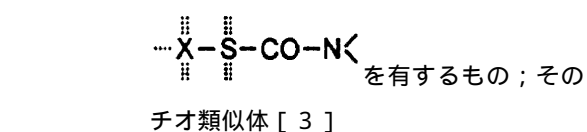
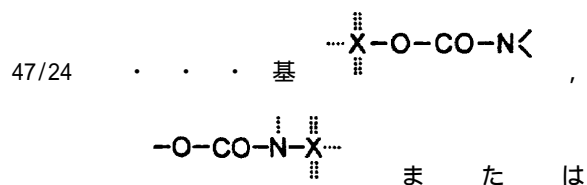
(2) このグループにおいては，縮合環系の環の数はその環系を 1 個の非環式鎖に変換するに必要な切断の数に等しい。縮合環系における関連する環は，注の基準に従って順次選択する。 [3]

(i) 環原子数が最少のもの
(i i) 環原子として異種原子の数が最多のもの 2 個以上の環が共有する環原子は各々の環の原子とみなす。 [3]

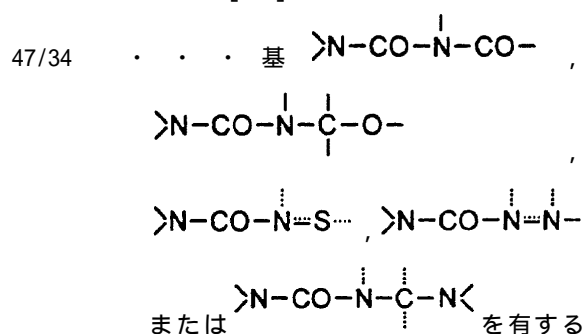
- 43/02 ・ 異項原子として 1 個またはそれ以上の酸素または硫黄原子のみをもつ環を有するもの [3]
- 43/04 ・ ・ 1 個の異種原子をもつもの [3]
- 43/06 ・ ・ ・ 5 員環 [3]
- 43/08 ・ ・ ・ 異項原子として酸素をもつもの [3]
- 43/10 ・ ・ ・ 異項原子として硫黄をもつもの [3]
- 43/12 ・ ・ ・ 炭素環と縮合しているもの [3]
- 43/14 ・ ・ ・ 6 員環 [3]
- 43/16 ・ ・ ・ 異項原子として酸素をもつもの [3]
- 43/18 ・ ・ ・ 異項原子として硫黄をもつもの [3]
- 43/20 ・ ・ ・ 3 または 4 員環 [3]
- 43/22 ・ ・ ・ 7 員以上の環 [3]
- 43/24 ・ ・ 2 個またはそれ以上の異種原子をもつもの [3]
- 43/26 ・ ・ ・ 5 員環 [3]
- 43/28 ・ ・ ・ 1，3 の位置に 2 個の異種原子をもつもの [3]
- 43/30 ・ ・ ・ 1，3 の位置に 2 個の酸素原子

	をもち炭素環と縮合したもの [3]	43/76	・ ・ ・ 1 , 3 オキサゾール ; 水素添加 1 , 3 オキサゾール [3]
43/32	・ ・ ・ 6 員環 [3]	43/78	・ ・ ・ 1 , 3 チアゾール ; 水素添加 1 , 3 チアゾール [3]
43/34	・ 異項原子として 1 個の窒素原子のみをもつ環を有するもの [3]	43/80	・ ・ 1 個の窒素原子と 1 個の酸素原子または 1 個の硫黄原子とを 1 , 2 の位置に有する 5 員環 [3]
43/36	・ ・ 5 員環 [3]	43/82	・ ・ 3 個の異項原子を有する 5 員環 [3]
43/38	・ ・ ・ 炭素環と縮合したもの [3]	43/824	・ ・ ・ 1 , 3 , 4 オキサジアゾール ; 1 , 3 , 4 チアジアゾール ; 水素添加 1 , 3 , 4 オキサジアゾール ; 水素添加 1 , 3 , 4 チアジアゾール [6]
43/40	・ ・ 6 員環 [3]	43/828	・ ・ ・ 1 , 2 , 3 オキサジアゾール ; 1 , 2 , 3 チアジアゾール ; 水素添加 1 , 2 , 3 オキサジアゾール ; 水素添加 1 , 2 , 3 チアジアゾール [6]
43/42	・ ・ ・ 炭素環と縮合したもの [3]	43/832	・ ・ ・ 1 , 2 , 5 オキサジアゾール ; 1 , 2 , 5 チアジアゾール ; 水素添加 1 , 2 , 5 オキサジアゾール ; 水素添加 1 , 2 , 5 チアジアゾール [6]
43/44	・ ・ 3 または 4 員環 [3]	43/836	・ ・ ・ 1 , 2 , 4 オキサジアゾール ; 1 , 2 , 4 チアジアゾール ; 水素添加 1 , 2 , 4 オキサジアゾール ; 水素添加 1 , 2 , 4 チアジアゾール [6]
43/46	・ ・ 7 員以上の環 [3]	43/84	・ ・ 1 個の窒素原子と 1 個の酸素原子または 1 個の硫黄原子とを 1 , 4 の位置に有する 6 員環 [3]
43/48	・ 異項原子として 2 個の窒素原子のみをもつ環を有するもの [3]	43/86	・ ・ 1 個の窒素原子と 1 個の酸素原子または 1 個の硫黄原子とを 1 , 3 の位置に有する 6 員環 [3]
43/50	・ ・ 1 , 3 ジアゾール ; 水素添加 1 , 3 ジアゾール [3]	43/88	・ ・ 3 個の異項原子を有する 6 員環 [3]
43/52	・ ・ ・ 炭素環と縮合したもの , 例 . ベンゾイミダゾール [3]	43/90	・ 相互に , または共通の炭素環系と縮合している 2 個またはそれ以上の関連する複素環をもつもの [3]
43/54	・ ・ 1 , 3 ジアジン ; 水素添加 1 , 3 ジアジン [3]	43/92	・ 異項原子として 1 個またはそれ以上のハロゲン原子をもつ環を有するもの [3]
43/56	・ ・ 1 , 2 ジアゾール ; 水素添加 1 , 2 ジアゾール [3]	45/00	少なくとも 1 つの環が 6 員環ではなく , 相互に縮合した 3 つ以上の炭素環を有する化合物を含有している殺生物剤 , 有害生物忌避剤または誘引剤 , または植物生長調節剤 (ハロゲン化炭化水素 A 0 1 N 2 9 / 0 8 ; 複素環と縮合したもの A 0 1 N 4 3 / 0 0) [3]
43/58	・ ・ 1 , 2 ジアジン ; 水素添加 1 , 2 ジアジン [3]	45/02	・ 3 個の炭素環を有するもの [3]
43/60	・ ・ 1 , 4 ジアジン ; 水素添加 1 , 4 ジアジン [3]	47/00	殺生物剤 , 有害生物忌避剤または誘引剤 , または植物生長調節剤であって , 環の一員でなくまた炭素または水素原子との結合をもたない炭素原子を含む有機化合物を含むもの , 例 . 炭酸の誘導体 (四ハロゲン化炭素 A 0 1 N 2 9 / 0 2) [3]
43/62	・ ・ 3 もしくは 4 員環または 7 員以上の環 [3]	47/02	・ 窒素原子との結合をもたない炭素原子 [3]
43/64	・ 異項原子として 3 個の窒素原子のみをもつ環を有するもの [3 , 4]	47/04	・ ・ > N S C H a l ₃ 基をもつもの
43/647	・ ・ トリアゾール ; 水素添加 トリアゾール [4]		
43/653	・ ・ ・ 1 , 2 , 4 トリアゾール ; 水素添加 1 , 2 , 4 トリアゾール [4]		
43/66	・ ・ 水素添加されておらずかつ環窒素原子のところで置換されていない 1 , 3 , 5 トリアジン [3]		
43/68	・ ・ ・ 環の炭素原子に直接ついた 2 個または 3 個の窒素原子をもつもの [3]		
43/70	・ ・ ・ ・ 環の炭素原子に直接ついた , ただ 1 個の酸素 , 硫黄またはハロゲン原子 , またはただ 1 個のシアノ , チオシアノ [S C N] , シアナト [O C N] またはアジド [N ₃] 基をもつジアミノ 1 , 3 , 5 トリアジン [3]		
43/707	・ ・ 1 , 2 , 3 または 1 , 2 , 4 トリアジン ; 水素添加 1 , 2 , 3 または 1 , 2 , 4 トリアジン [4]		
43/713	・ 異項原子として 4 個またはそれ以上の窒素原子のみをもつ環を有するもの [4]		
43/72	・ 異項原子として窒素原子および酸素または硫黄原子を有する環をもつもの [3]		
43/74	・ ・ 1 個の窒素原子と 1 個の酸素原子または 1 個の硫黄原子とを 1 , 3 の位置に有する 5 員環 [3]		

- [3]
- 47/06 ・ ・ O C O O 基をもつもの；そのチオ類似体 [3]
- 47/08 ・ 窒素原子への 1 個またはそれ以上の単結合をもつ炭素原子 [3]
- 47/10 ・ ・ カルバミン酸誘導体，すなわち O C O N < 基を有するもの；そのチオ類似体 [3]
- 47/12 ・ ・ ・ O C O N < 基，またはそのチオ類似体を有し直接環についていないしまた窒素原子が複素環の 1 員でもないもの [3]
- 47/14 ・ ・ ・ ・ そのジチオ類似体 [3]
- 47/16 ・ ・ ・ 窒素原子が複素環の一部であるもの [3]
- 47/18 ・ ・ ・ 複素環または環式脂肪族環に直接ついている O C O N < 基またはそのチオ類似体を有するもの [3]
- 47/20 ・ ・ ・ その N アリール誘導体 [3]
- 47/22 ・ ・ ・ その O アリールまたは S アリールエステル [3]



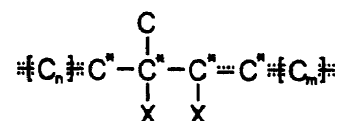
- 47/26 ・ ・ ・ ジチオカルバミン酸誘導体の酸化物，例．チウラムスルフィド [3]
- 47/28 ・ ・ 基 > N C O N < または > N C S N < を有する尿素またはチオ尿素（イソ尿素，イソチオ尿素 A 0 1 N 4 7 / 4 2 ） [3]
- 47/30 ・ ・ ・ 基 > N C O N アリールまたは > N C S N アリールを有する誘導体 [3]
- 47/32 ・ ・ ・ 環式脂肪族環に直接つく > N C O N < または > N C S N < 基を有するもの [3]



もの，例．ピウレット；そのチオ類似体；尿素 アルデヒド縮合物 [3]

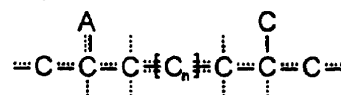
- 47/36 ・ ・ ・ 少なくとも 1 個の複素環に直接つく基 > N C O N < を有するもの；そのチオ類似体 [3]
- 47/38 ・ ・ ・ 少なくとも 1 個の窒素原子が複素環の一部であるところの > N C O N < 基を有するもの；そのチオ類似体 [3]
- 47/40 ・ 窒素と二重または三重結合を形成する炭素原子，例．シアネート，シアナミド [2 0 0 6 . 0 1]
- 47/42 ・ ・ N = C X₂ 基を有するもの，例．イソチオ尿素 [3]
- 47/44 ・ ・ ・ グアニジン；その誘導体 [3]
- 47/46 ・ ・ N = C = S 基をもつもの [3]
- 47/48 ・ ・ S C N 基をもつもの (A 0 1 N 4 3 / 0 0 ~ A 0 1 N 4 7 / 3 8 が優先) [3]

49/00 次のいずれかの基を含む化合物を含有している殺生物剤，有害生物忌避剤または誘引剤，または植物生長調節剤，例．幼若昆虫ホルモンまたはその類似体（炭化水素を含むもの A 0 1 N 2 7 / 0 0 ）



上式において，

m + n = 1 であり，2 つの X はいっしょになって Y または直接炭素 炭素結合を意味することもあり，星印のついてい炭素原子は，2 つの原子 X によって形成されることのある環系の場合を除いて，いかなる環系の一部でもなく，角かっこの中の炭素原子は，非環式または環式構造の一部である。



部である。上式においては，A は 1 つの炭素原子または Y を意味し，n = 0 であり，これらの炭素原子のうち 2 つ以上の炭素原子が同じ環系の一部であることはない。 [3]

- 51/00 殺生物剤，有害生物忌避剤または誘引剤，または植物生長調節剤であって，各原子が有する結合の数に関係なくまたこの配列の原子が複素環の 1 部でない O N S , X O S , N N S , O N N または O ハロゲンの原子配列を有する有機化合物を含むもの [3]

- 53/00 殺生物剤，有害生物忌避剤または誘引剤，または植物生長調節剤であってシクロプロパンカルボン酸またはその誘導体を含むもの [3]

53/02	$\begin{array}{c} \text{---C---I} \\ \\ \text{---C---} \end{array} \text{---C---CO---O---C}^*$ <p>*印のついた炭素原子が非環式か、環または環系の一部であるような基を含むエステル；そのチオ類似体 [6]</p>	57/14	・芳香族基をもつもの [3]
53/04	・複素環を有するもの [6]	57/16	・複素環基をもつもの [3]
53/06	・*印のついた炭素原子が非環式で、6員の芳香族環の炭素原子に直接結合したものの、例．ベンジルエステル；そのチオ類似体 [6]	57/18	・リン 炭素結合をもつもの (A 0 1 N 5 7 / 0 2 が優先) [3]
53/08	・6員の芳香族環に結合したアリールオキシ基を有するもの、例．フェノキシベンジルエステル；そのチオ類似体 [6]	57/20	・非環式または環式脂肪族基をもつもの [3]
53/10	・A 0 1 N 5 3 / 0 4 または A 0 1 N 5 3 / 0 6 のグループに分類されないエステル [6]	57/22	・芳香族基をもつもの [3]
53/12	$\begin{array}{c} \text{---C---I} \\ \\ \text{---C---} \end{array} \text{---C---X} \begin{array}{c} \diagup \\ \text{Y} \end{array}$ <p>においてXまたはYの少なくとも1つが窒素原子である基を含む化合物、例．シクロプロパンカルボン酸アミド [6]</p>	57/24	・複素環基をもつもの [3]
53/14	・シクロプロパンカルボン酸ニトリル [6]	57/26	・リン 窒素結合をもつもの (A 0 1 N 5 7 / 0 2 が優先) [3]
55/00	殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であって、炭素、水素、ハロゲン、酸素、窒素および硫黄以外の元素を有する有機化合物を含むもの (有機リン化合物を含むもの A 0 1 N 5 7 / 0 0) [3]	57/28	・非環式または環式脂肪族基をもつもの [3]
55/02	・金属を含むもの [3]	57/30	・芳香族基をもつもの [3]
55/04	・スズ [3]	57/32	・複素環基をもつもの [3]
55/06	・水銀 [3]	57/34	・リン ハロゲン結合をもつもの；ホスホニウム塩 [3]
55/08	・ホウ素を含むもの [3]	57/36	・環員としてリンをもつもの [3]
55/10	・ケイ素を含むもの [6]	59/00	殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であって元素または無機化合物を含むもの [3]
57/00	殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であって有機リン化合物を含むもの [3]	59/02	・硫黄；セレン；テルル；その化合物 [3]
57/02	・リン原子に結合する択一的に特定された原子をもつものであって、グループ A 0 1 N 5 7 / 1 0 , A 0 1 N 5 7 / 1 8 , A 0 1 N 5 7 / 2 6 , A 0 1 N 5 7 / 3 4 の単一のグループには属さないもの [3]	59/04	・二硫化炭素；一酸化炭素；二酸化炭素 [2 0 0 6 . 0 1]
57/04	・非環式または環式脂肪族基をもつもの [3]	59/06	・アルミニウム；カルシウム；マグネシウム；その化合物 [3]
57/06	・芳香族基をもつもの [3]	59/08	・アルカリ金属の塩化物；アルカリ土類金属の塩化物 [3]
57/08	・複素環基をもつもの [3]	59/10	・ふっ化物 [3]
57/10	・リン 酸素結合またはリン 硫黄結合をもつもの (A 0 1 N 5 7 / 0 2 が優先) [3]	59/12	・よう素、例．ヨードフォル；その化合物 [3]
57/12	・非環式または環式脂肪族基をもつもの [3]	59/14	・ほう素；その化合物 [3]
		59/16	・重金属；その化合物 [3]
		59/18	・水銀 [3]
		59/20	・銅 [3]
		59/22	・ひ素 [3]
		59/24	・シアンまたはその化合物、例．シアン化水素、シアン酸、シアナミド、チオシアン酸 [3]
		59/26	・リン；その化合物 [3]
		61/00	殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であって組成不明または未決定の物質、例．作用によってのみ特定される物質、を含むもの [3]
		61/02	・鉱物油；タール油；タール；それらの蒸留物、抽出物または転換物 (これらの原料より分離された単一化合物を含むもの A 0 1 N 2 7 / 0 0 ~ A 0 1 N 5 9 / 0 0) [3]
		63/00	殺生物剤、有害生物忌避剤または誘引剤、または植物生長調節剤であって、微生物、ウイルス、微生物菌類または動物を含むもの、あるいは微生物、ウイルス、微生物菌類または動物によって生産された、または

それらから採取された物質，例．酵素または発酵生産物（構造決定化合物を含むもの A 0 1 N 2 7 / 0 0 ~ A 0 1 N 5 9 / 0 0 ；単細胞の藻類 A 0 1 N 6 5 / 0 3 ） [2 0 2 0 . 0 1]

注

このメイングループ内では，ラストブレイス優先ルールが適用されない，すなわち共通ルールが適用される

- 63/10 ・動物；動物によって生産された，または動物から採取された物質 [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/12 ・線虫 [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/14 ・昆虫 [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/16 ・クモ形類 [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/20 ・バクテリア；バクテリアによって生産された，またはバクテリアから採取された物質 [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/22 ・パチルス [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/23 ・パチルス・チューリンゲンシス [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/25 ・パエニパチルス [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/27 ・シュードモナス [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/28 ・ストレプトミセス [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/30 ・微生物菌類；微生物菌類によって生産された，または微生物菌類から採取された物質 [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/32 ・酵母 [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/34 ・アスペルギルス [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/36 ・ペニシリウム [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/38 ・トリコデルマ [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/40 ・ウイルス，例．バクテリオファージ [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/50 ・分離された酵素；分離された蛋白質（ペプチド A 0 1 N 3 7 / 4 6 ） [2 0 2 0 . 0 1]
- 63/60 ・分離された核酸 [2 0 2 0 . 0 1]
- 65/00 殺生物剤，有害生物忌避剤または誘引剤，または植物生長調節剤であって，藻類，地衣類，蘚苔類，多細胞菌類または植物に由来する物質，またはそれらの抽出物を含むもの（構造決定化合物を含むもの A 0 1 N 2 7 / 0 0 ~ A 0 1 N 5 9 / 0 0 ） [3 , 2 0 0 9 . 0 1]
- 65/03 ・藻類 [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/04 ・シダ植物門（シダ類） [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/06 ・球果植物門（裸子植物門），例．イトスギ [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/08 ・モクレン綱（双子葉植物） [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/10 ・セリ科，例．パセリ，キャラウェイ，ディル，ラビッジ，ウイキョウまたはスネークベッド [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/12 ・キク科，例．ヒナギク，除虫菊，アー

ティチョーク，レタス，ヒマワリ，ヨモギ，タラゴン [2 0 0 9 . 0 1]

- 65/14 ・ニシキギ科（ツルウメモドキ科），例．オウシュウニシキギ，ツルナスまたはサンダーゴッドバイン [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/16 ・ツツジ科，例．シャクナゲ，アルブス，アセビ，クランベリー，ビルベリー [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/18 ・トウダイグサ科，例．ヒマ（トウゴマ） [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/20 ・マメ科，例．エンドウ，ヒラマメ，大豆，クローバー，アカシア，アメリカサイカチ，デリスまたはナツフジ [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/22 ・シソ科，例．タイム，ローズマリー，タツナミソウ，ウツボグサ，ラベンダー，シソ，メグサハッカ，ペパーミントまたはスペアミント [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/24 ・クスノキ科，例．ゲッケイジュ，アボカド，サッサfras，シナモンまたはシヨウノウ [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/26 ・センダン科，例．マホガニー，ランサットまたはニーム [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/28 ・フトモモ科（ギンバイカ科），例．ティーツリーまたはクローブ [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/30 ・タデ科（ソバ科），例．レッドニーズまたはダイオウ [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/32 ・キンボウゲ科，例．スハマソウ、ヒドラステス（ゴールデンシール） [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/34 ・バラ科，例．イチゴ，サンザシ，スモモ，サクラ，モモ，アンズまたはアーモンド [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/36 ・ミカン科，例．ライム，オレンジ，レモン，キハダまたはサンショウ [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/38 ・ナス科，例．イヌホウズキ，トマト，タバコまたはチリペッパー [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/40 ・ユリ綱（単子葉植物） [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/42 ・アロエ科またはユリ科，例．アロエ，シュロソウ，タマネギ，ニンニクまたはチャイブ [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/44 ・イネ科，例．タケ，レモングラスまたはシトロネラグラス [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/46 ・ビャクブ科，例．ナベワリ [2 0 0 9 . 0 1]
- 65/48 ・ショウガ科，例．ショウガまたはコウリョウキョウ [2 0 0 9 . 0 1]